

# 平成23年夏季の気温観測結果について

環境科学研究所

○奥津 千里  
鈴木 麻菜

## 1 はじめに

横浜市環境科学研究所では、2002年から市内に気温観測網の整備を進めてきた。気温観測地点は、2002年の14地点から2011年に74地点となり、概ね2.5kmメッシュ毎に1地点の観測地点を確保している（表-1）。今回、2011年夏季（7～8月）の気温観測の状況を解析したので概要を報告する。

## 2 観測方法

横浜市内の小学校73地点及び当研究所の百葉箱内にデータロガー付サーミスタ温度計を6月に設置した。74地点の観測位置を図-1に示す。観測は1時間毎正時の瞬間値の気温をデータロガーに蓄積し、9月上旬にデータの回収を行った。気温の分布図は、最小二乗法(Kriging)による空間予測による補間を行い、GISソフトによって作成した。

表-1 観測地点数

年度	地点
2002	14
2003	31
2004	31
2005	63
2006	66
2007	68
2008	69
2009	69
2010	69
2011	74

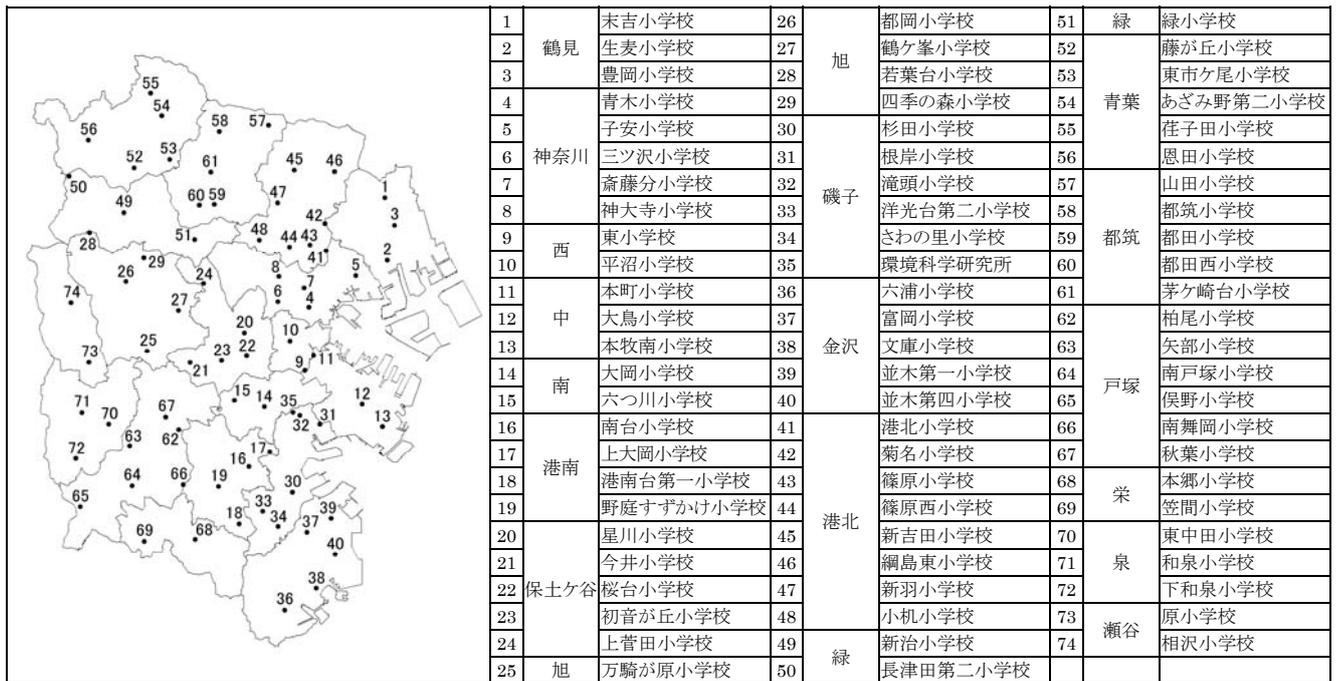


図-1 観測地点

## 3 結果

### (1) 30℃以上の時間数分布（図-2）

30℃以上になった延べ時間数は観測期間の1,488時間中、港北区綱島東で最も多い延べ381時間、港南区野庭町で最も少ない延べ164時間を観測し、観測地点間で最大217時間の差があった。

### (2) 真夏日日数分布（図-3）

真夏日日数は、鶴見区生麦で最も多い46日、旭区大池町で最も少ない32日を観測し、観測地点間で最大14日の差があった（横浜地方気象台（中区山手町）では41日）。

(3) 熱帯夜日数分布 (図-4)

熱帯夜日数は、横浜港周辺（鶴見区、神奈川区、西区、中区など）で熱帯夜が多く観測された。

神奈川区新子安で最も多い 39 日、戸塚区南舞岡で最も少ない 10 日を観測し、観測地点間で最大 29 日の差があった。（横浜地方気象台では 23 日）。

(4) 平均気温分布 (図-5)

平均気温は、北東部（港北区、都筑区など）から臨海部（鶴見区、神奈川区など）中心部（西区、中区など）で高温、栄区や金沢区の円海山周辺地区、旭区、保土ヶ谷区や戸塚区の大池・今井・名瀬地区といった大規模な緑地がある地域では低温となる傾向が見られた。

港北区綱島東で最も高い 27.7℃、緑地に隣接した旭区大池町で最も低い 25.9℃を観測し、観測地点間で最大 1.8℃の差がみられた。

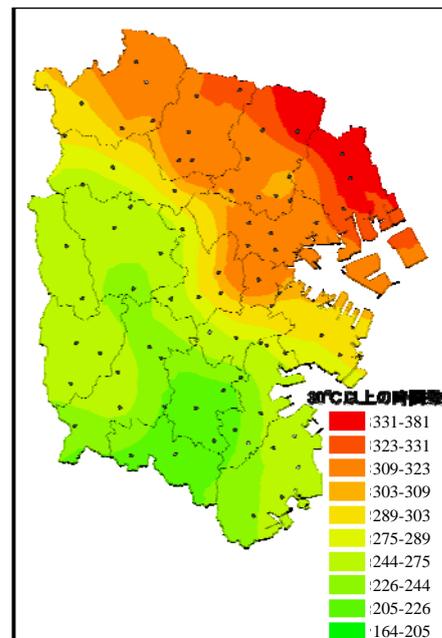


図-2 30℃以上の時間数分布

(5) 最高気温は8月中旬の晴天日

最高気温は、8月中旬の晴天日の平成 23 年 8 月 18 日午後 1 時に都筑区池辺町で 38.0℃が観測された（横浜地方気象台の最高気温は 8 月 11 日の 35.2℃）。

4 まとめ

横浜市内 74 地点の 2011 年夏季（7～8 月）の気温観測データから、主に日中は、市内の北東部（港北区、都筑区など）で高温となり、夜間は、横浜港周辺（鶴見区、神奈川区、西区、中区など）で高温となる傾向が昨年同様に見られた。

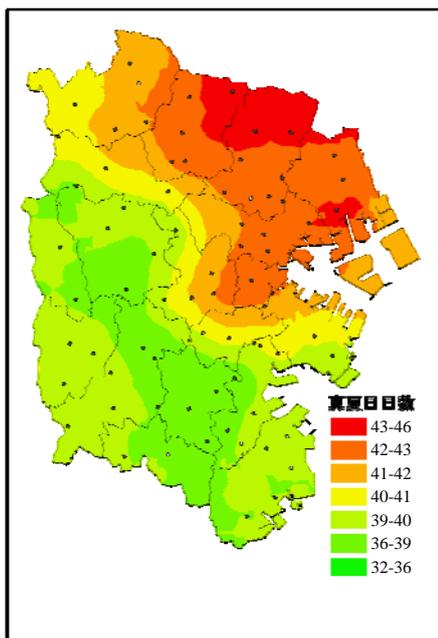


図-3 真夏日日数分布

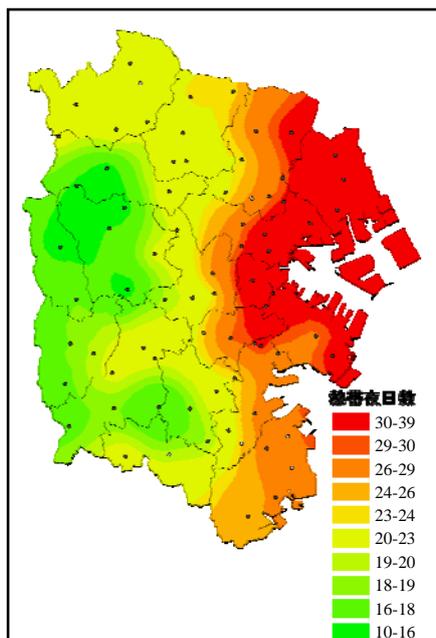


図-4 熱帯夜日数分布

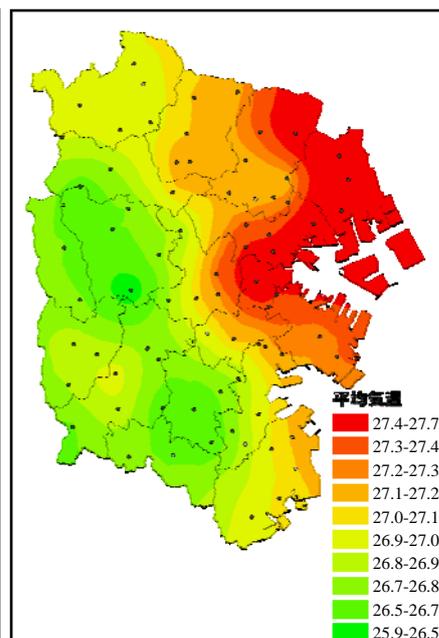


図-5 平均気温分布